

日常に
踊るココロを

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2021-2023

ダンス
レジデンス

Dance
Residence

篠田千明
井手茂太
伊藤郁女 | Compagnie Himé
児玉北斗
仁田晶凱 | オータムプロダクションズ
石黒桃子
宮悠介
小尻健太 | SandD
大森瑤子



穂の国とよはし芸術劇場PLAT / 豊橋市

Dance Residence

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2021-2023

穂の国とよはし芸術劇場PLAT(豊橋市)が主催する豊橋アーティスト・イン・レジデンス(ダンス・レジデンス)は、ダンスや身体表現を軸とした活動を行う国内外のアーティストを対象に滞在制作をサポートする事業です。参加アーティストとその団体は豊橋市内で一定期間暮らしながら、PLATを拠点に創作やリハーサルを実施。施設設備を提供するだけでなく、宿泊場所を確保したり、取材やリサーチのために施設や人物、ロケーションをコーディネートしたりと、作品づくりのバックアップを行います。一方、アーティストもワークショップや稽古場公開、成果発表会などを行い、市民に向けて文化芸術活動の機会を提供。アーティストと豊橋市、双方にメリットのある画期的な事業として認知されています。

2021~23年度は、すでにキャリアを確立している国際的アーティストも参加。もちろん、これから世界へと羽ばたくであろう新進気鋭のアーティストもやってきて、それぞれが刺激を受けたり与えたりしてきました。2020年に日本でも新型コロナウイルス感染症が拡大して以降、ダンスをはじめとした舞台芸術は人が集うという性質上、厳しい状況に置かれました。しかしPLATでは感染症予防対策に努めながら事業を実施。人と人との間隔はとって、アーティストや市民が感覚を研ぎ澄ませる場を積極的に創出してきました。前向きな姿勢はコロナ禍で不安定なアーティストや市民の心とも共鳴し合ったのでしょう。この3年間もダンス・レジデンスは賑わいました。加えて、過去に参加したアーティストがさまざまな形でPLATに帰還。ダンス・レジデンスの新たな展開には、この事業が次の段階へ入ったことも実感しました。

本誌では3年度分の主要な活動を振り返り、その成果をお伝えします。

間隔と感覚をめぐる覚悟



井手茂太「1on1」マンツーマンワークショップより

2021年度

実施データ

参加アーティスト
篠田千明
井手茂太
伊藤郁女
Compagnie Himé
児玉北斗
 (計4団体)

アーティスト滞在日数: 49日(1団体、途中で中止)
 イベント開催日数: 29日
 レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数: 19人
 ワークショップの参加者数: 116人(のべ人数)
 成果発表会の参加者数: 61人(1団体、中止)
 稽古場公開の参加者数: 44人
 参加者合計: 221人(のべ人数)

2022年度

参加アーティスト
児玉北斗
仁田晶凱
オータムプロダクションズ
石黒桃子
小尻健太
 (計4団体)

アーティスト滞在日数: 30日
 イベント開催日数: 13日
 レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数: 24人
 ワークショップの参加者数: 20人
 成果発表会(パフォーマンス)の参加者数: 98人
 稽古場公開の参加者数: 19人
 参加者合計: 137人

2023年度

参加アーティスト
小尻健太
SandD
宮悠介
大森瑤子
 (計3団体)

アーティスト滞在日数: 30日
 イベント開催日数: 10日
 レジデントアーティストおよび滞在メンバー人数: 8人
 ワークショップの参加者数: 46人
 成果発表会の参加者数: 14人
 稽古場公開の参加者数: 73人
 参加者合計: 133人

児玉北斗 成果発表会「Wound and Ground (β ver.)」より



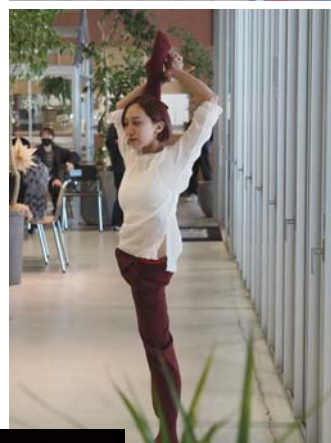
仁田晶凱/オータムプロダクションズ「The Musical Offering ~ポリボディと幻声部のリチェルカーレ~」 成果発表会&トークの様子



↑小尻健太らが水上ビル周辺をリサーチする様子



←石黒桃子 ショートパフォーマンスより



篠田千明らが牛川の渡しでリサーチする様子



PLATダンス・レジデンス作品集に来場した中学生たち



V O I C E

市民の声
 (アンケートより一部抜粋)

乳児同伴OKだったのがありがたいです。意外と子供(2歳)も楽しめていました。
 (篠田千明ワークショップ参加者・女性・30代)

合同稽古での多種多様な動きが面白くチャームでその人だからこそ素敵で、私は私だからこそ魅力もあるのだと思いました。
 (井手茂太ワークショップ参加者・女性・30代)

パフォーマンスが滞り前半のやり方から、さまざまなワークショップを経て、進化しているのが見えて感動しました。
 (伊藤郁女 成果発表会&ミニワークショップ参加者)

体を動かすことへのハードルがさがったような、もっと身近に感じられることなのだ、と認識出来ました。色々な年齢層の方がいらしゃったのも新鮮でした。
 (児玉北斗ワークショップ参加者・女性・40代)

老若男女誰もが楽しめることか考えられている。プロ意識もありながらユーモアもありすごく親しみやすかった。とても尊敬しました。振り付けの概念をぶち壊されて、新たな感覚にもなりました。
 (小尻健太ワークショップ参加者・男性・10代)

歩く、曲がる、腕のふりで体が動く。自然体を意識するワークショップでした。久々に動きまわりました。ありがとう。
 (仁田晶凱ワークショップ参加者・男性・60代)

朗読とダンス、おもしろいなとおもいました。二人、三人とからんでいくところが、なんか良かったなあ。1つのドラマを観たようでした!
 (石黒桃子 成果発表会参加者・女性・50代)

とても楽しく体と精神が解放された気がします。また受けたと思うワークショップでした。
 (宮悠介ワークショップ参加者・女性・60代)

力強い音楽と、キレのよいダンスが印象に残ったとともに、ずっとダンスしているのを見て「すごい体力だな、人間には、物凄い力があるんだな!」と思いました。
 (PLATダンス・レジデンス作品集 学校公演鑑賞者・男性・10代)

前進する ダンス

表現を止めない、あきらめない!

ダンス・レジデンスは集団生活を伴うため感染症予防対策に細心の注意を払ってきました。それでも2021年度には1団体が中断を余儀なくされ、翌年度に残りの滞在制作と成果発表会を実施しています。舞台芸術活動に制限が設けられる中でも、PLATはダンス・レジデンスを中止しようとは考えませんでした。なぜなら、それを求めるアーティストと市民の存在があったからです。私たちは文化芸術を停止させることなく、できる方法を模索しました。



小尻健太 | SandD ワークショップの様子

表現者も参加者も何かを求めて……

コロナ禍においてもPLATは活動の場を維持し、アーティストたちに寄り添いました。ダンス・レジデンスは普段の生活から切り離されることで創作に集中できると同時に、先を見据えて頭を整理する好機。自分は今後どうしていくのか、アーティストたちの葛藤を垣間見る3年間でした。振付家やダンサーとして既に高い評価を得ている井手茂太、伊藤郁女、小尻健太も、他では得られない何かを求めて豊橋に来たのです。小尻は創造活動室の窓越しに学生が勉強する姿を見ながらレッスンに励んだことを「面白い体験」と日報に記しており、PLATの日常も小尻にとっては非日常となったようです。一方で市民にもさまざまな想いがあり、宮悠介のワークショップの参加者は、自己開示的な内容だったこともあり、ひどく感情を揺さぶられた様子。この例に限らず涙をこらえる人も少なくありません。市民もダンス・レジデンスに求めるところは大きいのです。



井手茂太「1on1」マンツーマンワークショップより



石黒桃子 成果発表会より



伊藤郁女 成果発表会より

海外アーティストの受け入れ再開

2021年度からは海外アーティストの受け入れを再開。豊橋生まれの東京育ち、現在はフランスを拠点に活動する伊藤郁女がダンサーたちと来日しました。当初2020年4月の予定でしたが、新型コロナ感染拡大を受け、2021年12月に延期して実施しました。伊藤はPLATで『私は言葉を信じないので踊る』を上演したこともあるほど国内外を歩き来していますが、外国人ダンサーは日本どころかアジア初上陸で、そのエッセンスを吸収しようと稽古にリサーチにと精力的。それは海外生活の長い伊藤自身も同様で、狂言師の茂山千之丞、舞踏家の笠井勲、能楽師の宇高竜成をゲストアーティストに迎え、受講する立場となってワークショップを開催しました。また豊橋日仏サロンの市民に通訳を依頼するなど交流を図ると、それをきっかけにメンバーの一人は合気道を体験! 身体への新たなアプローチを学びました。さらに伊藤はワークショップのため花園幼稚園にも出向き、幅広い市民との出会いを実現させました。



伊藤郁女 稽古場の様子

豊橋で芽生えた想いを豊橋で形に

ダンス・レジデンスに2度目の参加を果たしたのは石黒桃子。彼女は2021年1月、京極朋彦のレジデンスに帯同しました。その時の宿舎にあった漫画が今回の創作の出発点。漫画にインスピレーションを受けて生まれた『夜霧と宇宙船』は2021年11月に初演されています。しかし石黒は当時、同作をさらに練り上げることで国内外での上演を目指しており、そのためには再び豊橋で過ごしてリクエイションをする必要があると考えました。漫画もさることながら、石黒にとっては豊橋の風景や人々との対話が『夜霧と宇宙船』に深く影響しているといいます。もともとPLATや豊橋市に興味があった彼女は、前回の滞在制作を経験してダンスとの関わり方が変わったとまで述懐。だからこそ今度は自ら応募しました。ダンス・レジデンスは、アーティストが一歩踏み出す勇気も後押ししています。



PLATダンス・レジデンス作品集 BATIK「春の祭典」より

レジデンス経験者たちが帰ってきた!

2017年度から継続するダンス・レジデンスの参加アーティストは、新たな企画で豊橋の地に招かれることがあります。象徴的なのは2022年6月に公演した「PLATダンス・レジデンス作品集」。2018年度に参加した長谷川寧率いる富士山アネット、2020年度の黒田育世率いるBATIK(パティック)と京極朋彦の3組がぜいたくな競演を繰り広げました。2019年度参加のスペースノートブランク(小野彩加・中澤陽)は、PLATが毎年実施している「高校生と創る演劇」シリーズの演出家として招かれ、2021年11月、松原俊太郎の書き下ろし戯曲『ミライハ』を上演。二人は高校生の意見を積極的に採用。一見難解な松原の戯曲をポップに届けました。康本雅子は2023年8月、まさに2019年度のダンス・レジデンスで創作した『全自動煩悩ずいずい図』を再演。〈生と性〉が渦巻く世界で観客を圧倒しました。2022年2月には地域創造による公立文化施設スタッフのための研修事業「ステージラボ」豊橋セッションが開催され、事業報告とあわせて、Arche(アルケー)の井田亜紗実が黒須育海とともにダンスショーイングを披露。彼女らは2020年度に参加しています。



PLATダンス・レジデンス作品集 富士山アネット『Unrelated to You』より



高校生と創る演劇『ミライハ』より

撮影:伊藤華織



← 康本雅子『全自動煩悩ずいずい図』より



地域創造 ステージラボ・豊橋セッション 事業報告の様子

一人 じゃない

豊橋で見つめ直す世界とわたし

滞在アーティストは豊橋に来たからこそ得られるものが多岐にわたってあります。劇場スタッフはアーティストの意図を汲み、人や場所、施設などを紹介。双方を引き合わせるコーディネーターも行います。創作は時に孤独な作業でもありますが、きっかけ一つで視界が開かれることはあるはず。市の枠を越えたネットワークも構築しており、アーティスト個々の活動範囲だけでは難しい多様な出会いの場としてもダンス・レジデンスは機能しています。



宮悠介 成果発表会より



宮悠介 自分の「かたち」を描く身体表現ワークショップの様子

制作・技術、両面からのサポート体制

ダンス・レジデンスでは必要に応じてPLATのスタッフがアーティストの活動を支えます。宮悠介は筑波大学、同大学院で舞踊学を専攻・研究し、愛知県出身の平山素子に師事。ヨコハマダンスコレクション2022コンペティションIIで最優秀新人賞などに輝いている期待の新鋭です。彼は、より良いワークショップを目指して事前にリハーサルを実施。制作スタッフが参加する形でシミュレーションを行い、意見交換を重ねてブラッシュアップしました。結果、参加者からは「頭をリラックスして体を動かす時間になりました。(中略)講師の若さがさすがでした」といった好評の声をいただいています。また、PLATには技術スタッフがいるのも強み。映像や写真、マイクなどを用いる創作を試みた宮のほか、音響や映像を駆使する実験的作品を構想していた小尻健太や、クラブのような音楽的環境を劇場に取り込もうとした児玉北斗にもテクニカルの面で相談に乗るなどサポートしました。なお、児玉の成果発表会には愛知大学の学生やYPAM(ワイバム/横浜国際舞台芸術ミーティング)のインターンも関わり、幅広い交流が生まれています。



小尻健太の稽古場風景



大森瑠子 振付ワークショップの様子

横浜、上田、豊岡…… ダンスがつなぐ街と街

PLATはダンスを通じてネットワークを拡大しています。2023年度には横浜赤レンガ倉庫1号館と連携。ヨコハマダンスコレクション2023コンペティションIにおいて「穂の国とよはし芸術劇場PLAT賞」を新たに贈賞しました。最初の受賞者には大森瑠子が決まり、2024年度のダンス・レジデンスに迎える予定。2024年2月には本滞在の準備を含めたブレ滞在を行い、ワークショップも開催しています。仁田晶凱は『The Musical Offering』を上田・犀の角で滞在制作後、豊橋に移動して創作を続け、最終的に横浜で発表。伊藤郁女は『あなたへ』を横浜赤レンガ倉庫1号館にて日本初演後、その足でダンス・レジデンスに参加して同作のリクレーションを行い、フランスやスイスで40回以上の上演を続けています。アーティストは拠点以外にも創作環境があることで新鮮な感覚を得られ、篠田千明や宮悠介は滞在後、豊岡演劇祭に参加しており、地域間の情報共有も進んでいます。



伊藤郁女のグループが豊橋技術科学大学で「弱いロボット」を見学する様子

街・人・歴史がアーティストを刺激する

滞在アーティストは取材・リサーチのために劇場の外でも活動します。伊藤郁女たちは豊橋日仏サロンのほかに豊橋技術科学大学にも出掛け、「弱いロボット」の研究をしている岡田美智男率いるICD-LABを見学。これをきっかけに新しいプロジェクトも検討されています。小尻健太はABTとよはしブラジル協会で行った日系ブラジル人と懇談。彼らの歴史を知り、社会に対する気づきをえました。篠田千明は、ゲームセンターで音楽やリズムに反応して身体を動かす「音ゲー」とそのプレイヤーに取材。音と身体の関係を探りました。彼女たちは牛川の渡船や保見団地のブラジル人コミュニティなども視察しています。豊橋の街、人、歴史はアーティストをさまざまに刺激しました。同時に、ダンス・レジデンスは劇場文化の周知や市民交流にもつながっています。



篠田千明のグループがゲームセンターでリサーチしている様子



仁田晶凱/オータムプロダクションズ『The Musical Offering』成果発表会&トークの様子

アーティストが羽ばたく滑走路に

ダンス・レジデンスには未知の才能を秘めた若きアーティストも数多く参加してきました。仁田晶凱も次代を担う存在の一人。Co.山田うんで活動後、仲間とともにオータムプロダクションズを立ち上げた仁田は、主に作曲家と作業していたため、ダンス・レジデンスではグループ創作に挑戦しました。PLATは新しい才能、新しい作品が国内のみならず世界へと飛び立つことを願い、その滑走路となるべく創造環境を提供しています。



越境する 身体

いろんなところに踊るココロ

ダンスは、決められた場所で決められた振付を上手に踊ることとは限りません。ダンス・レジデンスでも身体や空間への多彩なアプローチが見られました。現代には既存の枠組みやイメージを越えた身体表現があり、意外と身近なところにもダンスの芽が存在しているとわかれば、アーティストと鑑賞者の距離もグッと縮まります。人間がカラダを持つ以上、身体表現は誰にとっても無関係ではなく、生活に気づきを与えてくれることもあるのです。



石黒桃子 ショートパフォーマンスより



篠田千明 身体ワークショップの様子

日常と非日常をダンスでつなぐ

ダンスは時として日常とつながることがあります。石黒桃子は市内の複合施設「emCAMPUS」のフードホールでショートパフォーマンスを披露。それを目当てに来た人も、たまたま居合わせた人も、一緒にダンスを観る体験ができました。この企画は子どものいる保護者にも好評。観客がなるべく自由にいられるよう野外やカフェでの公演を志向してきた石黒は、劇場に行きづらい人もダンスに触れられる一つの方法を示しました。また身体を記録メディアと捉える篠田千明のワークショップでは、踊るといふより、記憶やイメージを再現する動きを追求しました。その一環で参加者は散らかったものを「片づける」ことを実践。きれいにレイアウトする人もいれば端に寄せる人もいて、片づけるという概念の違いに気づかされます。そのあと各人の意図を聞いたり、他の人の感想を聞いて片づけてみたりと展開。篠田はいわゆる踊りにとらわれず、日常的な行為の中に振付の可能性を探りました。

劇場にヒミツの ダンスフロアが 出現!?

児玉北斗はダンスの歴史を踏まえたうえで、クラブカルチャーや儀式、パフォーマンスとして踊ることの差異を検証するような作品の上演『Wound and Ground (β ver.)』を主ホール舞台上で行いました。大音量の中、実に3時間も地面を揺らし続けるというハードコアな趣向のため、観客は入退場自由。しかし、ほとんどの人は3時間通しで大迫力の光景を見守りました。クラブや祭礼の空間と劇場ではスピーカーを床だけでなく吊って配置できるといった違いがあり、一種の異文化交流にもなりました。彼らは2021年度の滞在中、体調不良のメンバーが出たことからレジデンスを一旦中止。しかし4カ月後に滞在再開を果たします。中断期間に、メンバー全員で一度目の滞在を振り返って課題を整理。それを二度目に反映させ、いっそう充実した成果を見せます。この出来事は滞在を重ねる意義も示してくれました。



児玉北斗 成果発表会『Wound and Ground (β ver.)』より



伊藤郁女のグループが能楽師・宇高竜成のワークショップを受ける様子

ジャンルを横断する身体

石黒桃子は新体操選手として活躍後、筑波大学体育専門学群でモダンやジャズなどのダンスを学び、コンテンポラリーダンスへと移りました。日本女子体育大学卒の大森瑠子はクラシックバレエやストリートダンスを経験し、ジャンルを交差させたスタイルで高い評価を得ています。伊藤郁女は前述のとおり能、狂言、舞踏それぞれの第一線で活躍するゲストアーティストを迎えてワークショップを開催。日本古来の身体性と密接な関係にある3つのジャンルは外国人アーティストには目からウロコと言うべき新発見の連続。伊藤にとっても作品をより深め、進化させるきっかけになりました。

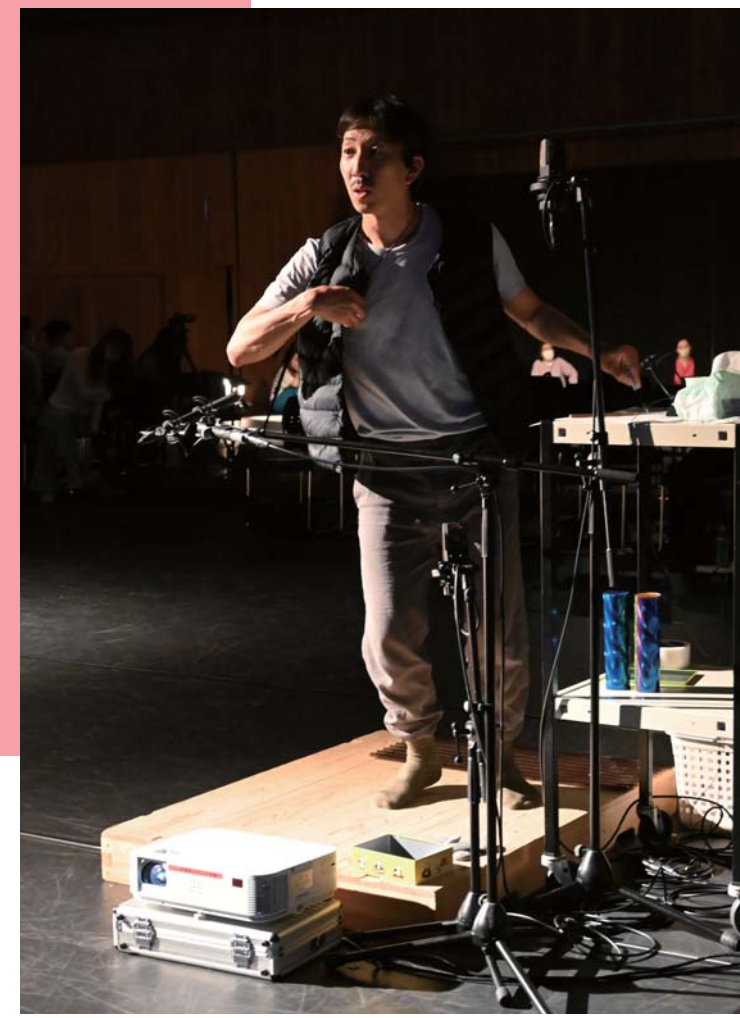


映像、音響、言葉…… ダンスの可能性を拡張する

小尻健太は、動作と音の関連性について「フォーリー」を利用した実験に挑戦。フォーリーは映画などの映像に対して効果音を制作し、リアリティや臨場感を再現させる手法です。ダンスをしている時の身体感覚を観客にも伝えたいと考え、小尻たちはソロで踊って撮影。それを無音で再生しながら、自身が踊っている時の感覚に近い音を見つけ、それらを効果音としてつける実験を行いました。街なかの音、身近なもので出せる音なども使って動作と音の相性を試行錯誤。豊橋在住の映像作家が参加する場面もあり、PLATや豊橋が今後どのように小尻の作品に関わるか、その可能性も見えてきました。また、石黒桃子は声や言葉を積極的に用いた創作を試みています。ワークショップでも参加者にお気に入りの本などを持ってきてもらい、その中の言葉からダンスへと発展させていく面白さを提案。ダンスと異なる表現を挿入することは鑑賞者の幅が広がるという利点もあり、ダンスの可能性を拡張します。



小尻健太 オープンスタジオパフォーマンス/ワークショップの様子



小尻健太の稽古場風景

Dance Residence Artist Profile

2021-2023

滞在期間中は下記ワークショップのほか、稽古場公開、成果発表会、ショートパフォーマンスなど、アーティスト自らの創作手法を活かした地域交流活動を実施しました。

しのだちはる 篠田千明 2021

演劇作家・演出家・観光ガイド。2004年に多摩美術大学の同級生と快楽を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。その後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。『四つの機劇』『非劇』と、劇の成り立ちそのものを問う作品や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園『ZOO』などを製作。2018年Bangkok Biennialで『超常現象館』を主催。2019年台北ADAM artist labなどに参加。2020年に帰国後は、YCAMと共同でオンラインパフォーマンス『5x5x5本足の椅子』を製作。2022年に東京の民家を舞台上に『no plan in duty』を演出。2024年2月に『アントン、猫、クリ』をスコア化するワークショップを開催。



©Ryo Oguchi

滞在日程：2021年4月5日～18日 14日間
滞在メンバー：篠田千明、神村恵、ちびがっつ、増田美佳
滞在内容：『体を書く』リハーサル制作およびオンライン配信活動として（2022年9月、オンライン開催【豊岡演劇祭2022フリンジ】、同10月、Social Kitchenにて上演【KYOTO EXPERIMENT 2022 フリンジ【More Experiments】】）
●篠田千明ダンスワークショップ「ある一定の時間を経て体に書かれている動きを取り出して他人に振りうつしてみる」（2021年4月10日・11日）開催

いとうかおり 伊藤郁女 2021 Compagnie Himé

振付家・ダンサー。豊橋で生まれ東京で育つ。5歳よりクラシックバレエを始め、20歳でニューヨーク州立大学パーチェスカレッジへ留学後、立教大学で社会学と教育学を専攻。2003～05年文化庁新進芸術家海外研修制度で渡米。フィリップ・ドゥクフレ、アンジュラン・プレルジョカージュ、アラン・プラテル、シディ・ラルビ・セルカウイ、ジェームス・ティエレなどの作品にダンサーとして活躍。拠点をフランスに移し、2015年にCompagnie Himéを立ち上げ自作の振付だけでなく、映像作品や絵画も手がける。2015年、SACDより新人優秀振付賞を受賞、フランス政府より芸術文化勲章「シュヴァリエ」を受章。2022年日本ダンスフォーラム賞大賞受賞。ほか受賞多数。23年よりストラスブール・グランテスタ国立演劇センター-TJPディレクター（総芸術監督）に就任。



©Anaïs Baseilhac

滞在日程：2021年12月6日～19日 14日間
滞在メンバー：伊藤郁女、Delphine LANSON、Léonore ZURFLÜH、Louis GILLARD、Marvin CLECH
ゲストアーティスト：茂山千之丞、笠井徹、宇高竜成
滞在内容：『あなたへ』リクリエーション、新作のリサーチとして（2022年から現在フランスThéâtre de Châtillon, Le Parvis Scène Nationale Tarbes Pyreneesほかにて上演中）
●成果発表会&ミニワークショップ（2021年12月12日）開催
●Louis GILLARD&Marvin CLECHによるダンスワークショップ（2021年12月18日）開催

いでしげひろ 井手茂太 2021

振付家・ダンサー。イデビアン・クルー主宰。既存のダンススタイルにとらわれない自由な発想で、日常の身振りや踊り手の個性を活かしたオリジナリティ溢れる振付手法で注目される。カンパニーでの作品発表に加え、演劇作品へのステージングや振付、CM・ミュージックビデオの振付や出演など、幅広いジャンルでも活動する。また振付はもとより、個性派ダンサーとしても注目を集める。近年では椎名林檎、星野源、乃木坂46等のミュージックビデオの振付や出演、NODA-MAP『[Q]:A Night At The Kabuki』（演出：野田秀樹）、「ハムレット」『千と千尋の神隠し』（演出：ジョン・ケアー）、『フリムンスタース』（演出：松尾スズキ）などの演劇公演の振付も手掛けている。



©Mina OGATA

滞在日程：2021年7月12日～25日 14日間
滞在メンバー：井手茂太、立川真代（制作）
滞在内容：新作『イデソロキャン』のリサーチおよび市民との交流をもとにした創作活動として（2022年6月、シアタートラムにて上演）
●井手茂太『1on1』マンツーマンワークショップ&ショーイング（2021年7月13日～18日・20日～25日）開催

こだまほくと 児玉北斗 2021-22

2001年よりダンサーとして国際的に活動、ヨーテポリオペラ・ダンスカンパニーなどに所属しマッツ・エックらの作品にて活躍。振付家としても2017年『Trace(s)』、2020年『Pure Core』などを発表。2021年より芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市）の専任講師として、ダンスをめぐる実践・研究・教育に取り組んでいる。



滞在日程：2022年1月18日～24日 7日間 ※1月25日～30日は中止
滞在内容：『Pure Core』（2020年12月初演）を基にした新作パフォーマンス・インスタレーションのためのリサーチと試作
●児玉北斗 身体コミュニケーションワークショップ（2022年1月23日）開催
滞在日程：2022年5月17日～22日 6日間
滞在メンバー：黒田健太、児玉北斗、武田真彦（音楽家）、竹宮華美（制作）、田中すみれ、藤田彩佳、益田さち、渡辺瑞帆（セノグラファー）
滞在内容：『Pure Core』を基にした『Wound and Ground (β ver.)』のリハーサルおよび初演

にたあきよし 仁田晶凱 2022 オータムプロダクションズ

ダンサー・振付家。日本大学芸術学部を中退後、2013年よりベルギー・ブリュッセルP.A.R.T.S.にて振付を学ぶ。帰国後は東京を拠点に活動。Co.山田うんに所属。制作・ダンサーの町田妙子と2020年より自身の振付作品を企画制作する団体としてオータムプロダクションズを主宰する。音楽と舞踊の関係性に特化した『17Etudes』『シシオドシ組曲』などのダンス公演やワークショップを実施。現在は言語、テキスト、スピーチと体の動きについてのリサーチから作品制作を行っている。Dance Base Yokohama レジデンスアーティスト。2024年4月に新作『processing and tuning』を上演予定。



©halkuzuya

滞在日程：2022年11月22日～28日 7日間
滞在メンバー：仁田晶凱、町田妙子、貝ヶ石奈美、木原浩太、林田海里、雷永藍音、高橋宏治
滞在内容：『The Musical Offering ～ポリボディと幻声部のリチュエルカレ～』の創作活動として（2023年4月、神奈川県立青少年センター スタジオHIKARIにて上演）
●仁田晶凱 即興ワークショップ（2022年11月23日）開催

こじりけんた 小尻健太 2022-23 SandD

振付家・ダンサー。1999年ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロ・スカラシップ賞受賞。イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンスシアターIに日本人男性として初めて入団。2010年よりフリーランスとなり『Study for Self/portrait』（原美術館）、『At The Core』（パリ日本文化会館、アルディッティ弦楽四重奏団共演）などの作品制作を軸に国内外で活動。ダンサーとして、シルヴィ・ギエム『6000 Miles Away』世界ツアー、Noism、スウェーデン王立バレエ団、NHKバレエの饗宴などに客演。2017年よりSandDを主宰し、ジャンルや世代を横断した舞台芸術におけるダンサーの身体の在り方を探求している。近年は、オペラやミュージカルの振付、フィギュアスケート日本代表選手の表現指導、『Vitality,Swiss』プログラムアンバサダー、2024年4月より横浜赤レンガ倉庫1号館振付家を務めるなど、多岐にわたる。



©Carl Thorborg

滞在日程：2022年10月27日～29日 3日間
滞在メンバー：小尻健太、小森あや（制作）
滞在内容：『Study for Self/portrait』ソロパフォーマンス再演に向けたリサーチ
●小尻健太 バレエ経験者のための表現ワークショップ（2022年10月27日）開催
滞在日程：2023年4月29日～5月13日 15日間
滞在メンバー：小尻健太、佐藤琢哉、中原楽（音響）、小森あや（制作）
滞在内容：前年に同じ
●小尻健太 | SandD ワークショップ（2023年5月6日・13日）開催

いしくももこ 石黒桃子 2022

2004年より約8年間新体操選手として活躍。2013年、筑波大学体育専門学群に入学し、バレエ、モダンなど多様なダンスを学ぶ傍ら、平山素子の哲学に感銘を受け、コンテンポラリーダンスを活動の軸とする。2015年より梅田宏明によるSomatic Field Projectの初期メンバーとして活動。2018年独立後、舞台だけでなくCM・MV出演、写真作品の被写体など精力的に活動。2021年アーツカウンシル東京第1回スタートアップ助成を受けた自主公演『夜露と宇宙船』を機に本格的に創作活動を再開し、2023年にLeonom Dance Companyを設立。ダンス業界のものへの求心力を高めることを理念として、自主公演や街中での即興イベントの定例開、他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも積極的に行う。



©Maho Kurita

滞在日程：2022年12月3日～16日 14日間
滞在メンバー：石黒桃子、山田菜美子、鈴木亮祐、藤井陽、垣花莉穂、鈴木泰啓、石黒敦也
滞在内容：『夜露と宇宙船』のリクリエーションおよび新作に向けたリサーチ（2023年12月、シアター・パピロンの流れのほとりにて上演）
●石黒桃子 クリエイター&オーディエンス体験ワークショップ（2022年12月4日）開催

みやゆうすけ 宮悠介 2023

1998年生まれ。身体表現者・舞台作家。筑波大学・大学院で舞踊学を専攻、研究。舞踊を平山素子に師事し、ダンサーとして近藤良平、鈴木ユキオ、梅田宏明などの作品にも出演。振付家としては、身体と言葉、声を用いて内面の「かたちないエネルギー」を空間に表出させ、鑑賞者を内省的な思考へ導くダンスを探索する。これまで共作『巡礼』がAJDF2018文部科学大臣賞。『かたち』が2022年ヨコハマダンスコレクションにてコンペティションII 最優秀新人賞。『架空生物の鳴き真似（Alien Blues）』がSAI DANCE FESTIVAL 2023 ソロ部門 First Prize受賞。各地から招聘を受け上演やワークショップも実施している。



©Yasuhiro Suzuta

滞在日程：2023年7月16日～27日 12日間
滞在メンバー：宮悠介、福永将也、相川 貴
滞在内容：『かたち』のリクリエーションおよび新作『架空生物の鳴き真似（Alien Blues）』の創作（2023年9月豊岡演劇祭2023フリンジショーケース、2023年12月ヨコハマダンスコレクション「ダンスコネクション」ほかで上演）
●宮悠介 自身の「かたち」を描く身体表現ワークショップ（2023年7月22日）開催

おおもりようこ 大森瑠子 2023

日本女子体育大学卒業。クラシックバレエやストリートダンスなどの経験から様々なジャンルを交差させるような独自のスタイルで、ソロやグループなどの作品を創作。ヨコハマダンスコレクションにて2019年にコンペティションII最優秀新人賞。2023年にコンペティションI若手振付家のための在日フランス大使館賞・ダンス リフレクションズ by ヴァン クリーフ&アーベル賞、穂の国とよはし芸術劇場PLAT賞をダブル受賞。2022年パリDanse élargieにて第2位などを受賞。これまで国内外5都市にてグループ作品『Help』、2023年イタリア、フランスにてソロ作品『PLAIN-chan』などを発表。



©田村穂乃香

滞在日程：2024年2月15日～17日 3日間
滞在メンバー：大森瑠子
滞在内容：劇場や地域のリサーチおよび次年度以降におこなう本滞在の計画
●大森瑠子 振付ワークショップ/ショートパフォーマンス（2024年2月17日）開催



伊藤郁女 (Compagnie Himé) 花園幼稚園アウトリーチリサーチより



まちの未来をアートで育む



◀ QRコードを読み込むだけで
コンセプトムービーと本誌
データダウンロードサイトへ!



豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2021-2023
ダンス・レジデンス 2023年度事業報告書
2024年3月発行

発行：公益財団法人豊橋文化振興財団
主催：豊橋市 / 公益財団法人豊橋文化振興財団

令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

